

国際学会体験記



コペンハーゲンの美しい街並み



学会会場の入り口からの様子

2024年7月9日から4日間に渡って、The International Society for the Rorschach and Projective Methods (ISR) XXIV Congress がデンマークのコペンハーゲンにて開催されました。北欧特有のカラフルで幾何学的な建造物が建ち並ぶ美しい街並みの中心地にある会場で、私はポスター発表を行いました。

ISRは、心理アセスメントの中でもロールシャッハテストを中心とした投映法と呼ばれる心理検査に関する学会で、国際学会は3年に一度開催されます。欧米諸国だけでなく、日本や中東各国などからの参加者も多く、みなロールシャッハテストや心理アセスメントに関する議論を繰り広げていました。

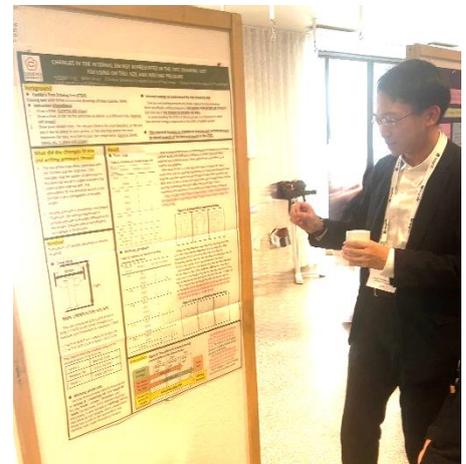
ポスター発表は午後のコーヒブレイクの30分間で行われ、私は初日と2日目のグループでの発表でした。初めての国際学会、初めて英語で研究発表するということで、発表の直前は少し緊張していましたが、コーヒカップを片手にやり取りするようになりリラックスした空間での発表だったため、すぐに緊張は消えていきました。

樹木画テスト三枚法という描画テストの基礎研究に関する私のポスターは、ロールシャッハテストの研究ばかりが立ち並ぶ中ではかなり異質で、アウェーな気分にもなりましたが、発表時間中には多くの方がポスターを見たり、質問してくださったりしたため、嬉しく思いました。ポスターを見てくださった海外の先生方とのやり取りを通じて、世界各国の描画テストの実情を知ることができました。

自分の発表時間以外の時間では、海外の著名な先生方のシンポジウムや講演、様々な研究の口頭発表を聴講しました。各国で独自の発展を遂げた投映法などの発表もあり、まだまだ自分の知らない投映法に出会う面白さを感じました。また、『治療的アセスメントの理論と実践—クライアントの靴を履いて (金剛出版)』で有名なスティーブン・E・フィン先生にご挨拶することができたり、Thurston Cradock Test of Shame (TCTS) の開発者の一人であるジュリー・クラドック・オリアリー先生から直接 TCTS の説明を聴くことができたりなど、非常に貴重な経験ができました。

今回の体験から、今後の課題として自身の英語力の向上も強く意識しました。英語での学術的なやり取りの経験が少なく、元々の英語力もそこまで自信があったわけではなかったため、ポスター発表において想定していなかった質問へ回答する際にはもどかしい思いもしました。しかしながら、国際学会を経て、英語で研究発表をすることへの心理的なハードルはかなり下がったと感じています。そのため、今後も国内外を問わず、積極的に研究発表を行っていきたいと思います。

今回、無事に学会発表を行うことができたのは、中京大学や学会からの助成などを含め、多くの方々からの支えがあったおかげです。関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。



コーヒ片手にポスター発表する様子



会場入り口の看板と共に